

## COLUMN 1



### 故郷・境港に水木しげる記念館

水木さんが育った境港市は日本海に面した古くからある港町。水木しげるロードに並ぶ妖怪ブロンズが年間200万人もの観光客を引き寄せている。そして、ファンなら見逃せないのが水木しげる記念館。描き下ろしの大作や水木作品の世界が体験できる。



## 調布の水木ウォークがもっと楽しめる

# 水木さんと調布

水木さんが暮らし、仕事をしたまち・調布。  
散歩しながら水木さんの面影をおってみよう。



## 調布に住んで50年!

大正11年に生まれ境港で育ち、南方に従軍し、復員後は神戸で紙芝居作者となる。昭和34年、甲州街道を大八車に家財を積んで調布市に転居。ここで鬼太郎はじめ数々の傑作を生み出す。平成20年に名誉市民となり、22年には「ゲゲゲの女房」が高視聴率をあげた。そして平成27年11月30日に逝去(享年93歳)。いまは市内の墓に眠っている。



### 🔹「ゆうれい電車」

新宿のバーで、おばけの存在を激論して、鬼太郎を殴った2人組が鬼太郎の霊力によって仕返しされる物語。駅長や車掌に姿を変える鬼太郎や、水木さんならではの沿線の駅名や風景の描き方など、見どころあふれる短編。



## 水木マンガに登場した調布

水木さんの絵の特徴は妖怪が現れそうな細密な背景。自宅から仕事場まで歩いて通勤していた水木さんは、マンガにも、調布の風景を取り入れている。ここでは調布を舞台にした代表的な2つの鬼太郎作品を紹介しよう。



### 🔹「籠車」

怪気象ブリガドーンにつつまれ、調布市だけが他と隔絶してしまう。真相は妖怪がおばけの国を建設する企みだったのだ。鬼太郎はおばけの総理と対決する――。

## COLUMN 2

### 水木さんが描いた調布の名所

水木さんは市立図書館のもとに於いて、「図書館だより」の表紙に「調布を描くシリーズ」として、昭和53年からイラストを描き下ろした。調布の四季や年中行事、お気に入りの風景などに、鬼太郎やねずみ男などが溶け込むように描かれ、調布の名所案内画ともなっている。

